

27Q-pm053

生命の大切さを知るために：統合型カリキュラムによるヒューマニズム教育
阿部 芳廣¹, 飯島 史朗¹, 石川 さと子¹, ○江原 吉博¹, 岸本 桂子¹, 小林 静子¹,
高橋 恭子¹, 福島 紀子¹, 望月 眞弓¹, 横田 恵理子¹(¹慶應大薬)

【目的】慶應義塾大学薬学部では、平成 18 年度より 6 年制薬学教育カリキュラムとして、プレゼンテーション、生命倫理、IT などを統合して学ぶ科目「生命の大切さを知るために」を開講した(第 126 年会で発表)。その後、このカリキュラムを高学年に展開し、3 年間にわたって段階的にヒューマニズム教育を行う統合型カリキュラムを完成させた。本発表では、3 年間の実施結果について報告する。

【結果】1 年春学期の「プレゼンテーション」では、グループワークを通して様々な意見があることを知り、グループとしての考えをわかりやすく伝えるための技術・態度を学び、同時期開講の「薬学生のための情報科学」をプレゼンテーションと相互に関連させ、情報収集・信憑性の判断・情報の発信に関するスキルを学ぶようにした(第 127 年会で発表)。秋学期の「ヒューマニズム/コミュニケーション」で「生と死」に関するテーマで議論・発表を行い、患者や家族の立場から生命倫理を考える機会とした。2 年春学期「生命倫理」では、生命倫理に関する基本的な知識を積み上げ、グループ討議も行う。続く 3 年春学期「患者から学ぶ」では、様々な患者・薬害被害者の話を聞いた後に薬剤師としての倫理観を考える討論を行った。これらのカリキュラムは SGL 委員会が主体となって絶えず内容をブラッシュアップし、また、チューター教員向けのワークショップも開催している。このように、全学的に取り組み、多くの教員が参加している点が本カリキュラムの特徴である。

【今後の課題】医療人に必要なヒューマニズムの醸成は 6 年間通して行う必要がある。1~3 年で学んだ内容を、高学年の講義・実習にどのように生かし、またカリキュラムを展開させるかが今後の課題である。

※本発表は文部科学省医療人 GP 支援で行った。www.pha.keio.ac.jp/gp/iryojin.html